［平成29年度　優秀賞］

日本人の“砂丘イメージ”の変化について

池本　千尋

目　次

第１章　はじめに
　　１－１　研究の背景と目的
　　１－２　先行研究の整理
　　１－３　研究の方法

第２章　「砂丘」概念と「鳥取砂丘」の観光利用
　　２－１　砂丘とは
　　２－２　観光地としての鳥取砂丘

第３章　「砂丘」が描かれた文学作品・絵画・写真
　　３－１　文芸作品の抽出と特徴の把握
　　３－２　年代ごとの「砂丘」イメージの変遷
　　３－３　絵・写真から砂丘イメージについて
　　３－４　1910－20年代の文学作品にみる「砂丘」イメージ

第４章　考察
　　４－１　砂丘イメージの変化と文学作品の関係
　　４－２　描かれる砂丘の変化

第１章　はじめに

１－１　研究の背景と目的

観光は、「日常と対比される非日常を求める現象」（アーリ、J.（加太宏邦訳）1995）とされ、観光空間には非日常的イメージが一つの重要な要素になっている。多くの自然資源が非日常性をその特徴とし、来訪者を集めているが、鳥取砂丘もそのような非日常の空間として、トリップアドバイザーの山陰の観光地ランキングで、自然資源の観光地として第1位である。

鳥取県の行っている鳥取県のイメージ調査（鳥取県 2015）では、「「鳥取県」と言われて連想するものとして「鳥取砂丘」（73％）が突出して高く、2011年当初から同様の傾向にある。「砂漠」「砂」「らくだ」など、「鳥取砂丘」を連想させるキーワードも上位に上がっている」とされている。また鳥取県の【観光地など】の認知率は、「鳥取砂丘」（93％）が圧倒的に高く、次いで、「水木しげるロード」（56％）、「大山」（39％）、「皆生温泉」（29％）、「三朝温泉」（28％）となっており、鳥取の観光地イメージも砂丘によって占められている。

また、砂丘と聞いてイメージする具体的な場所も鳥取砂丘が多い可能性がある。Google検索で「砂丘」と検索して出てくる画像100件をみると、100件のうち、鳥取砂丘が82件、その他の砂丘は16件、不明なもの2件であった。現代では、砂丘からイメージするものは鳥取砂丘である、ということが言える。

このように現代では、砂丘といえば鳥取砂丘を連想することが極めて多く、砂丘のイメージも鳥取砂丘のイメージに左右されている可能性がある。検索で抽出された画像100件から、現代の砂丘についてのイメージを抽出してみる。砂丘画像に共通する特徴として以下の点が多く挙げられる。

(1)	起伏がある	85件
(2)	一面が砂（草木、建物などがない）	85件
(3)	風紋がある	31件

図1-1-1　現在の砂丘のイメージ（画像検索による特徴）

図1-1-2 「鳥取砂丘」/鳥取Style

この結果から、現在の砂丘イメージは主に「起伏があり、一面に砂が広がっている草木・建物などがない場所」だということが考えられる。典型的には、図1-1-2のような画像が、現代の「砂丘」のイメージの典型ということができる。

本論文では、現代の、生活空間とはかけ離れた非日常的空間としての砂丘イメージがどのように形成されてきたのか、また、国内に他に砂丘はあるが、砂丘＝鳥取砂丘というイメージが形成されており、イメージ形成と来訪者数との

関係を明らかにすることにより、観光空間の成立とイメージ形成の関係を明らかにする。

1－2　先行研究の整理

まず観光地のイメージ形成について、神田（2001）が南紀白浜温泉の形成過程とイメージの関係を対象として、津田他(2011)が温泉地のイメージを対象として、また、丸上他(2015)が、屋久島、白骨温泉のイメージについて、資源保全との関係で論じている。このうち、イメージの変遷については、津田他が雑誌「旅」での記事からたどっている。地域の観光資源である温泉地のイメージ形成について、特定の場所の取り上げられ方のイメージを調査している。

また、モノに対するイメージの変遷については、門池(2014)が、文学作品から蛇のイメージの変遷を明らかにしている。時代ごとに蛇が登場する作品を無作異に抽出するなかで、国内の蛇イメージは、西洋に比べ様々な宗教の思想が受容されたことで独自のイメージを形成し、複雑なものになったとされていた。

鳥取砂丘についての概説、特に文芸との関連を記している文献として、毎日新聞社(1958)、吉田（1973)、大村（1993）がある。これらから、鳥取砂丘のイメージ形成に関わる文学者、作品として、有島武郎、里見弴（「世界一」)、坂本四方太（「夢の如し」)、島崎藤村(「山陰みやげ」)、与謝野晶子、前川佐美雄、高浜虚子らがあげられる。このうち、有島武郎の短歌と与謝野晶子の短歌が砂丘イメージの形成に果たした役割が大きいと指摘されている。有島武郎は鳥取砂丘に訪れ、歌を残した1か月後に情死を遂げた。有島は、鳥取の文学結社「水脈社」により招かれた講師で「濱坂の遠き砂丘の中にして　さびしきわれを見出つるかも」という一首を砂丘に遊んだ時に残し、『とにかくこの「砂丘の歌」は、有島の死によって、鳥取砂丘を世に紹介するとともに、一躍有名になった』(毎日新聞社　　1958)とされている。また与謝野晶子については、「与謝野夫妻が砂丘を訪れてから、地元の歌人を始め、中央歌壇で活躍中の著名歌人の来遊が急に増えて、以来、数多くの秀作を現在に残しつつ現在につづいている」(松本　1980)と記されている。

1－3　研究の方法

本論では、日本人の砂丘イメージの変遷を明らかにしようとすることから、文学作品・絵画・写真（以下本論では「文芸作品」とする）に現れる砂丘の描写が時代の変遷とともにどのように変化するのかを明らかにすることとした。砂丘が観光地や名所になる以前の時代から、文芸作品を中心にその描かれ方や作品の全体数から砂丘への関心や世間の認識を調査していく方法を取った。

具体的には、「国立国会図書館サーチ」において「砂丘」をキーワードとして簡易検索を行い、抽出されたもののうち、文芸作品について取り上げ、鳥取砂丘が観光地として一定の来訪者を集め、鳥取砂丘のイメージが形成されたと考えられる1950年代までの期間について、全数調査を行い、その後の年代については、補足的に抽出調査を行なった。文芸作品で表現される砂丘イメージの変化を明らかにし、その変化をもたらした要因、来訪者数との関連を検討した。

第2章　「砂丘」概念と「鳥取砂丘」の観光利用

2－1　砂丘とは

国土交通省の国土地理院HPコラム「砂丘」によると、「砂丘は砂によって運ばれた砂が堆積してできた丘、または堤防状の高まりです。同じような地形には海の潮流に砂が運ばれてきた砂州があります。（中略）砂ばかりの砂丘は少なく植林されたり、農地に利用されていたり、宅地化されています」とされている。国内の主な砂丘は、青森県の猿ヶ森砂丘、石川県の内灘砂丘などが挙げられる。毎日新聞社（1958）、鳥取砂丘再生会議HPによると、鳥取砂丘もかつては、湖山砂丘、濱坂砂丘、鳥取砂丘などと場所により呼び名が分けられ、日本海沿いに現在より広く広がっていた。しかし、植林や防砂林の育成などが行われたため、農地化・宅地化を経て、砂丘面積は1950年の約567ヘクタールから1978年には146.2ヘクタールになったとされ、現在に至っている。

2－2　観光地としての鳥取砂丘

現在、全国にある砂丘の中でも、観光地として定着している鳥取砂丘がいつから、観光の対象となったのだろうか。

昭和29年以前は、統計がとられていないが、図2-2-1の観光客数の推移より、観光地として来訪者が増えているのは、1955年以降である。1955年に天然記念物、山陰海岸国定公園に指定され1957年には進められていた植林計画の見直しと、観光砂丘開発委員会が設置されるといった取り組みがあり、観光客増加の要因と考えられる。さらに「1963年には砂丘ブームが到来し、観光客が増加したとされる」（松田 2004）との記述がみられ、この時期に鳥取砂丘への観光が一気に広まったと考えられる。また、1974年から1989年までは、少し減少しているが、1990年以降は大きな増減は見られない。

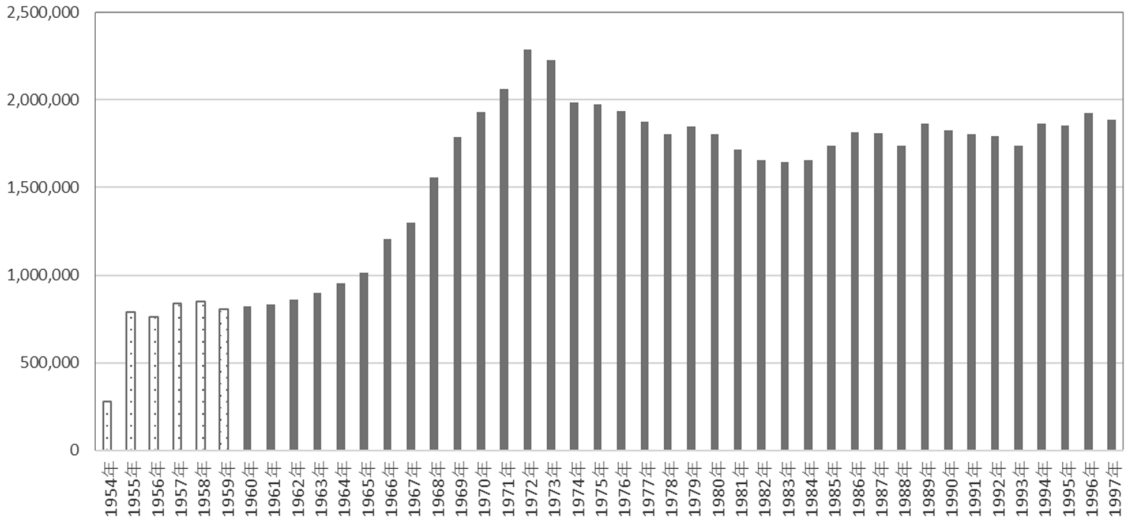

図2-2-1　鳥取砂丘の観光入込客数の推移（鳥取県HP平成28年観光入込動態調査結果）

第3章　「砂丘」が描かれた文学作品・絵画・写真

3－1　文芸作品の抽出と特徴の把握

砂丘を取りあげた文芸作品を国立国会図書館の簡易検索から、キーワード「砂丘」で検索し、国内の砂丘を対象にしているものを抽出した。また調査する年代は、最初の作品が登場する1909年から1950年代までとした（表3-1-1）。なお、1950年代には鳥取砂丘が観光地として定着したため、この時期までとしている。

抽出した作品について、①タイトル・著者・出版社、②出版年、③作品の種類（１．小説・童話・紙芝居、２．詩、３．短歌・俳句、４．紀行文・自叙伝、５．絵・写真 の別）、④砂丘の描かれ方（起伏の大きさについて、大きい起伏有り＝○、起伏が小さい、または起伏がない＝△、砂丘が描かれていない所＝×）、⑤砂丘が描かれている具体的な場所（鳥取砂丘＝○、それ以外＝×、複数の場所＝△、明記がなく不明なもの＝？）

これら6つの項目を整理し表3-3-1にまとめた。なお、表には、抽出した文芸作品に加え、先行研究に記述のあった鳥取砂丘での主な出来事・作品も含めている。

表3-1-1　調査対象とした文芸作品及び鳥取砂丘での主な出来事

	年	掲載元/タイトル	作者	出版社	種類	起伏	場所
1	1909(明治42)年	ホトトギス/「夢の如し」	坂本四方太	ホトトギス社	自伝小説	△	○
2	1910(明治43)年	新文芸（6月號）/「砂丘」	五十嵐禎夫	新文芸社	自叙伝	○	×
3	1912(明治45)年	君影草：少女小説/「6.砂丘」	植松美佐男	本郷書院	小説	△	×
4	1913(大正2)年	日本実業新報（191)/「砂丘」	プリュー	日本実業新報社	詩	△	?
5	1913(大正2)年	「砂丘」	吉江狐雁	忠誠堂	小説	○	×
6	1913(大正2)年	詩歌 3(4)/「砂丘」	前田夕暮	白日社	詩	△	×
7	1914(大正3)年	霧/「砂丘」	長田幹彦	九十九書房	小説	○	×
8	1914(大正3)年	小鳥/「月草と砂丘」	奥川夢郎	近代社	短歌	△	×
9	1914(大正3)年	志賀直哉と里見弴が鳥取砂丘に来訪。二人で、大仏の絵を書いたりなどする。					
10	1915(大正4)年	「砂丘」	若山牧水		小説・詩	△	×
11	1915(大正4)年	潮音１（１）/「砂丘通信」	潮音社/若山牧水	潮音社	紀行文	△	×
12	1916(大正5)年	旅と故郷/「砂丘の陰」	若山牧水	新潮社	小説	△	×
13	1916(大正5)年	層雲5（11）/「砂丘」	層雲社/鶴田吾郎	層雲社	絵	△	?
14	1917(大正6)年	詩歌7（1）/「砂丘」	早川江津	白日社	詩	△	?
15	1917(大正6)年	中学生2（12）/「砂丘ものがたり」	小笠原夕人	研究社	小説	○	?
16	1918(大正7)年	黎明の咲く花/「砂丘」	小島兼太郎	第四有隣堂	詩	△	?
17	1918(大正7)年	抒情小曲集；室生犀星第二詩集/「砂丘の上」	室生犀星	感情詩社	詩	△	?
18	1918(大正7)年	水甕5（11）/「砂丘の病人」	御手洗修	水甕社	詩	○	?
19	1920(大正9)年	地上の光/「砂丘と波浪」「砂濱に二人で寝転んで」	春本文寿　著	日本書院	詩	○	?
20	1920(大正9)年	「砂丘社」（芸術団体）が設立。倉吉中学教師・中井金三など中心					
21	1920(大正9)年	層雲９（11）/「砂丘」	小林銀汀	層雲社	詩	△	?
22	1921(大正10)年	社会及国家（3月號）/「砂丘」「砂丘の里」	一匡社/島田卓二	一匡社	絵	△	×
23	1921(大正10)年	開拓者　16（８）」/「砂丘の上の田園」	日本基督教青年会同盟	日本基督教青年会同盟	小説	△	×
24	1922(大正11)年	砂丘：歌集	野田砂丘三	鈴木成文堂	短歌	△	?
25	1922(大正11)年	法外初老句集/「はまなすの咲く砂丘を」	山本孝治	山本孝治	短歌	△	×
26	1922(大正11)年	帝国美術院美術展覧会原色画帖　第4回／砂丘の夕ぐれ	美術工芸会/篠田柏邦	芸艸堂	絵	△	?
27	1922(大正11)年	幸福人/「世界一」	里見弴	新潮社	紀行文	○	○
28	1922(大正11)年	未知国への憧憬/「砂丘と波浪」	灰野庄平	玄文社詩歌部	詩	△	?
29	1922(大正11)年	鳥取で水脈社が結成される					
30	1922(大正11)年	ホトトギス/「砂丘の夕日」	ホトトギス社/小川知甕	ホトトギス社	絵	△	?
31	1922(大正11)年	学芸39（491）/「砂丘」	東京社	東京社	写真	○	△
32	1923(大正12)年	朝の微風：抒情詩集/「砂丘より」	宵島俊吉	交蘭社	詩	△	?
33	1923(大正12)年	海峡の海：戯曲集ー高倉輝著作集第2輯ー/「砂丘」	高倉輝	アルス	小説	△	?
34	1923(大正12)年	旅人：生田喋々第5歌集/「九十九里の夏」「砂丘に立ちて」	生田喋々	博文館	短歌	○	×
35	1923(大正12)年	有島武郎が鳥取・浜松砂丘に来訪。「浜坂の遠き砂丘の中にして　さびしきわれをみいでつるかも」					
36	1923(大正12)年	婦人之友17（7）「砂丘のもとにて」「山陰スケッチ」	別所梅之助/森田恒友	主婦之友社	小説	?	×
37	1923(大正12)年	写真新報（7月號)(298)/「砂丘」	榊秀陽	写真新報社	写真	○	?
38	1923(大正12)年	少女の友 16(9)/「少女ロマンス 砂丘の蔭」	實業之日本社/三條さよ子	實業之日本社	小説	○	?
39	1924(大正13)年	山のしづく/「砂丘のもとにて」「山陰紀行」	別所梅之助	警醒社書店	紀行文	△	?
40	1924(大正13)年	虹児画譜 第2（悲しき微笑)/「砂丘」	路谷虹児	文蘭社	詩	△	?
41	1924(大正13)年	婦人之友 18(11)/「砂丘の散歩」	河井酔茗	主婦之友社	自叙伝	○	×
42	1924(大正13)年	台麓図案会作品展覧会図録/「砂丘」	台麓図案会 編/渥美商店	芸艸堂	絵	?	?
43	1924(大正13)年	虹児画譜 第三（銀砂の汀）/「砂丘」	路谷虹児	文蘭社	詩	△	?
44	1925(大正14)年	木に凭りて/「砂丘日記」	吉田絃次郎	新潮社	小説	△	×
45	1925(大正14)年	雲を拓く：石井季治第一詩集/「砂丘」	石井季治	境町（鳥取）	詩	△	?
46	1925(大正14)年	創作 13(3) [第3期]/「砂丘」	秋塲夢世	創作社	短歌	○	?
47	1925(大正14)年	饗宴 1(3)/「終と砂丘」	矢部堯一	京文社	小説	△	×
48	1925(大正14)年	女性 8(1)/「砂丘の足跡」	プラトン社/河井酔茗	プラトン社	自叙伝	○	×
49	1925(大正14)年	茨城美術展覧会図録 第2回/砂丘の家	安堵豊山	いはらき新聞社 編	絵	○	?
50	1926(大正15)年	生ける風景/砂丘の家より	河井酔茗	アルス	自叙伝	△	×
51	1926(大正15)年	雁来紅：歌集/「砂丘の道」	布施政一	篠山書房	短歌	△	×
52	1926(大正15)年	運命に従ふ者/「砂丘に立ちて」	小林操, 小林綾子	文芸社	詩	△	?
53	1926(大正15)年	心情詩集追憶詩編２/「砂丘」	小松柳吉　等著：瀬田弥太郎 編	心情詩社	詩	△	×
54	1926(大正15)年	全北海道詩集/「砂丘」	永島東洋	札幌詩学協会	詩	△	?
55	1926(大正15)年	情艶詩集/「砂丘に立ちて」	佐藤惣之助	新潮社	詩	△	?
56	1926(大正15)年	創作 14(2) [第3期]/「砂丘」	杉本萍吉	創作社	短歌	△	?

57	1926(大正15)年	アサヒカメラ 2(4)(7)グラヴユーア版/砂丘に遊ぶ子供	朝日新聞社/國領榮一	朝日新聞社	写真	○	?
58	1926(大正15)年	鳥城第46号/砂丘の村（油繪）五ノ二	鳥取第一中学校校友会	鳥取県立鳥取第一中学校校友会	絵	?	○
59	1926(大正15)年　鳥取砂丘社を結成（浜田重雄、川上貞夫らが砂丘社に加わる）						
60	1927(昭和2)年	旅愁：抒情詩集/「砂丘にて」「おもひでの砂丘で」「砂丘の嘆き」	勝田香月	東京閣	詩	○	?
61	1927(昭和2)年	アサヒカメラ 4(4)(19)/「砂丘」	朝日新聞出版/小池晩人	朝日新聞社	写真	△	×
62	1927(昭和2)年	砂丘：歌集/「砂丘のほとり」	法月歌客	白星書院	短歌	○	×
63	1927(昭和2)年	朝鮮愛慕詩集/「青白い砂丘」「砂丘」	竹下彦一	日本大学詩人会	詩	△	?
64	1927(昭和2)年	砂丘の夢：詩集	松村ろしふ	山陰詩人社	詩	○	?
65	1927(昭和2)年	昭和詩歌集/「砂丘に立ちて」	國立富美雄	新進詩人社	詩	△	?
66	1927(昭和2)年	光は濡れてゐる：抒情小詩/「砂丘」	泉芳朗	大地舎	詩	△	?
67	1927(昭和2)年	緑青：「愛誦」詩選/「砂丘にまろびて」	那須貞太郎	文蘭社	詩	△	?
68	1927(昭和2)年	青ぞらのとり/「砂丘」「砂丘の思ひ」	浅原鏡村	フタバ書房	詩	△	?
69	1927(昭和2)年　島崎藤村と二男の鶏二が山陰の旅で鳥取砂丘に来訪。						
70	1928(昭和3)年	つたづる第2輯/「鹿島の砂丘」「砂丘」	双葉会（甲府市）／秀島侃／鈴木基司	双葉会	詩	○	×
71	1928(昭和3)年	風景を歩む：詩集/「砂丘」	伊藤秀五郎	東京詩学協会	詩	?	?
72	1928(昭和3)年	噴水感情：詩集/「砂丘七月」	松本郁之介	文芸社	詩	△	?
73	1928(昭和3)年	刑務所の広場にも花が咲いた：詩集/「砂丘」	野長瀬正夫	わが人生社	詩	△	?
74	1928(昭和3)年	日傘：民謡と抒情集/「砂丘」	石堂保	文蘭社	詩	△	?
75	1928(昭和3)年	昭和詞華集/「砂丘に立ちて」	新進詩人社／國立富美雄	新進詩人社	詩	○	?
76	1928(昭和3)年	ひとつ星：童謡集/「砂丘」	加藤嘉一	著者	童話	?	?
77	1928(昭和3)年	アサヒカメラ6(4)（31）/「砂丘」	吉川美彌	朝日新聞社	写真	○	?
78	1928(昭和3)年	アサヒカメラ5(2)（23）/「晩秋の砂丘」	朝日新聞社/安藤交平	朝日新聞社	写真	○	?
79	1929(昭和4)年	海の横顔：詩集/「砂丘」	加藤末男	大地社	詩	○	?
80	1929(昭和4)年	三田文学４（2）/「砂丘の蔭」	三田文学編集部/杉山平助	三田文学会	小説	○	?
81	1929(昭和4)年	独活の花/「砂丘印刷部」	砂丘編輯部	砂丘編輯部	短歌	△	?
82	1930(昭和5)年	湘南伊豆文学散歩/「砂丘」	野田宇太郎 著	英宝社	自叙伝	○	×
83	1930(昭和5)年	かげろふの建築師/「砂丘で―ある科学者の手記から―」	竜胆寺雄	新潮社	小説	○	?
84	1930(昭和5)年　与謝野晶子・寛が鳥取・浜松砂丘に来訪。有島の死を偲ぶ歌を詠む。						
85	1931(昭和6)年	志賀直哉全集／鳥取	志賀直哉	改造社	紀行文	○	○
86	1931(昭和6)年	春：歌集/「砂丘」（十七首）	山下陸奥	竹柏会	短歌	○	○
87	1931(昭和6)年	朝の機翼/「鳥取市」「砂丘の感情」「海のある風景」	短歌創造社 [編]	短歌創造社	短歌	○	○
88	1931(昭和6)年	文戦８（３）/「貧しい砂丘」	濱崎秀司	文芸戦線社	小説	△	?
89	1932(昭和7)年	江戸川乱歩全集第3巻/「砂丘の蔭」	江戸川乱歩	平凡社	小説	○	?
90	1932(昭和7)年	石と豹の傍にて：歌集/「砂丘のほとり」	天野忠	白鮑魚社	詩	○	?
91	1932(昭和7)年	傀儡の人類史：詩集/「砂丘に立ちて」	河西新太郎	東都大学詩人聯盟	詩	△	?
92	1932(昭和7)年	砂丘の蒼情	短歌創造社（稲村謙一などか）	短歌創造社	短歌	○	○
93	1932(昭和7)年　高浜虚子一行を迎え、野火神社主催の砂丘で初めての吟行句会が開催。						
94	1933(昭和8)年	青柿：歌集/「砂丘の砂(７首)」	江尻正一	貝殻社	短歌	△	?
95	1933(昭和8)年	屑芋昇天：村岡清春詩集/「砂丘の蔭」	村岡清春	熊野詩人聡明	詩	△	?
96	1933(昭和8)年	国四郎画譜/「砂丘の家」	満谷国四郎	満谷国四郎画集編纂事務所	絵	○	?
97	1933(昭和8)年	早苗会展覧会図録/「砂丘」	早苗会／川村曼丹	芸艸堂	絵	?	?
98	1933(昭和8)年	愛誦８（3月號）（８３）/「砂丘」	文蘭社／南條芦夫	文蘭社	詩	○	?
99	1933(昭和8)年	新俳文/「砂丘」	高浜虚子	小山書店	紀行文	△	×
100	1933(昭和8)年	創作21(3）/「砂丘」	創作社/秋場夢世	創作社	短歌	○	?
101	1934(昭和9)年	白魂：杉森留三遺稿詩集/「雲と砂丘」	杉森一三	杉森一三	詩	△	?
102	1934(昭和9)年	海浜秘唱：抒情小曲集/「砂丘の砂」「新潟砂丘望郷のうた」	山本修之助	純芸術社	詩	○	×
103	1934(昭和9)年	屋上の旗/「砂丘」	米田雄郎/木田好	白日社	短歌	○	?
104	1934(昭和9)年	情炎の都市/「砂丘」	北村小松	中央公論社	小説	○	?
105	1934(昭和9)年	五百首の歌/「砂丘」（百首）	村山真雄	亀齢会出版部	短歌	△	×
106	1934(昭和9)年	雲は翔ける：歌集/「初冬の砂丘にて」	森本直象	情脈社（鳥取）	短歌	○	△
107	1934(昭和9)年	白日第8年(10月)/「砂丘」	白日荘／中村岳陵	白日荘	絵	○	?
108	1934(昭和9)年	白日第8年(12月)/「北國の砂丘」「船造る砂丘」	白日荘／吉田秋光／三輪晃勢	白日荘	絵	○	?
109	1935(昭和10)年	東京の屋根の下：山岸曙光歌謡集/「秋の砂丘」	山岸曙光 著	詩と民謡社	詩	△	?
110	1935(昭和10)年	我がラヂオの父：立志修養/「砂丘に寢て」	平塚七六郎 著	ラヂオ科学社	自叙伝	△	×
111	1935(昭和10)年	夢みる珠/「砂丘にて」	萩原公星 著	出羽書房	詩	△	?
112	1935(昭和10)年	新鋭詩集/「砂丘」	日本詩編輯部/湯淺志郎	アキラ書房	詩	△	?
113	1935(昭和10)年	白日第9年(12月)/「砂丘」	白日荘／西村五雲	白日荘	絵	?	?
114	1936(昭和11)年	春への招待：詩集/「砂丘の女王」	江間章子 著	東京VOUクラブ	詩	△	?
115	1936(昭和11)年	沼のある風景/「砂丘」	米田雄郎 編／天野瑛子	白日社	詩	○	?
116	1936(昭和11)年	詩歌(17)（10）「鳥取砂丘」	矢嶋歓一	白日社　編　出版	紀行文	○	○
117	1936(昭和11)年	現代詩人随筆選集/「新潟の砂丘」	河西新太郎/吉野信夫	詩壇新聞社	紀行文	○	×
118	1936(昭和11)年	朝寒：歌集/「山陰旅行」「濱村砂丘」「東郷温泉」	米谷利夫	山椒魚庵	短歌	○	○
119	1936(昭和11)年	「吉野朝太平記」（5巻）/「鳥取砂丘」	鷲尾雨工	春秋社	小説	○	○
120	1937(昭和12)年	船室：詩集/「砂山」	風間英雄	交蘭社	詩	△	?
121	1937(昭和12)年	ほのかなる曙：抒情詩集/「砂丘」	須木司朗	新泉社	詩	△	?
122	1937(昭和12)年	海の瞑想：詩集/「砂丘にて」	熊野眉秋	新世紀社	詩	△	?
123	1937(昭和12)年	アサヒカメラ24（1）/「砂丘」	朝日新聞出版/山城清次	朝日新聞社	写真	△	×
124	1938(昭和13)年	詩歌と歌謡と（9月號）/「砂丘の上にて」	詩と歌謡の社/葉山春夫	詩と歌謡の社	自叙伝	△	×
125	1938(昭和13)年	怪塔王：科学冒険小説 /「砂丘」	海野十三 著,梁川剛一 絵	春陽堂	小説	○	?
126	1938(昭和13)年	青春の記：感傷を綴る/「砂丘に立ちて」	芹沢寛	ルミノ出版社	詩	○	?
127	1939(昭和14)年	真野読本／長石の砂丘に立ちて	真野尋常高等小学校（新潟県）	真野尋常高等小学校郷土研究部	短歌	△	×
128	1939(昭和14)年	熱の幻想：歌集/「砂丘（二首）」	菅野修作 著	岩桧葉短歌会	短歌	○	?
129	1939(昭和14)年	自由歌：創作集「砂丘の蔭に」	改造社	改造社	小説	○	?
130	1939(昭和14)年	アサヒカメラ28(5)(164)/「砂丘の果」「砂丘の秋」	朝日新聞出版・朝日新聞社／伊東サヒワイ ／下島勝信	朝日新聞出版	写真	○	?
131	1939(昭和14)年	アサヒカメラ臨時増刊第九回國際寫眞サロン集/「砂丘」	朝日新聞出版・朝日新聞社／山下巖	朝日新聞出版	写真	○	?
132	1939(昭和14)年	アサヒカメラ27(1)(154)/「砂丘のたそがれ」	朝日新聞出版・朝日新聞社／櫻井靜馬	朝日新聞出版	写真	○	×
133	1940(昭和14)年	天使魚：詩集/「砂丘の日」	小島一晃 著	赤塚書房	詩	△	?
134	1940(昭和14)年	アサヒカメラ臨時増刊夏の特別号/「砂丘」	朝日新聞出版：朝日新聞社／ カール・エリクソン	朝日新聞出版	写真	△	?
135	1940(昭和15)年	砂丘の陰に	吉田喜久代	長崎書店	小説	○	○
136	1940(昭和15)年	兵隊と桜：句集/晴れた砂丘	秋山秋紅蓼	沙羅書房	俳句	△	×
137	1940(昭和15)年	風景７（４）/「砂丘（御宿）」	風景協会/阪井政次郎	風景協会	写真	○	×
138	1940(昭和15)年	新稲葉集	徳田文郷 [ほか]編纂	鳥取新興歌人会	短歌	○	○
139	1940(昭和15)年	季節の装幀：詩集/「砂丘の麓へ」	野呂喬 著	北方詩族社	詩	△	?
140	1940(昭和15)年	雲の時計：真田喜七詩集/「砂丘の家」	真田喜七 著	書物展望社	詩	○	?
141	1940(昭和15)年	梶浦正之詩抄/「砂丘」	梶浦正之	詩文学研究会	詩	△	?
142	1940(昭和15)年	星かげ：合同歌集/「砂丘」	錦織くら子／小林惠子	日曜世界社	短歌	△	?
143	1940(昭和15)年	夫婦の記録：書きおろし長編小説/「砂丘の戀人」「砂丘の深呼吸」	泉本三樹	六芸社	小説	○	×
144	1940(昭和15)年	寒紅：歌集/「鳥取の砂丘」	神森鈴子 著　神森美津子 編	神森美津子	短歌	○	○
145	1940(昭和15)年	アサヒカメラ30(6)(177)/「砂丘に戯る」	朝日新聞出版；朝日新聞社／木川田勝衛	朝日新聞出版	写真	○	?

146	1941(昭和16)年	火の山：歌集/「砂丘（十一首）」	満岡照子	芸林発行所	短歌	△	?	
147	1941(昭和16)年	年輪の序/「砂丘」	中原勇夫 著	地上社	短歌	○	×	
148	1941(昭和16)年	野路/「春の砂丘」	,山田百合子 著	勁草社	短歌	△	?	
149	1941(昭和16)年	大河の詩/「砂丘素描」	井上水果 著	大都書房	詩	△	×	
150	1942(昭和17)年	厚生時報７（4月號）（57）/「砂丘」	厚生時報社/北川清	厚生時報社	小説	○	×	
151	1942(昭和17)年	故園の春：詩集/「砂丘の子ら」	南咲夫	詩文学研究会	詩	△	?	
152	1942(昭和17)年	立子へ/「砂丘」	高浜虚子 著	桜井書店	紀行文	○	×	
153	1942(昭和17)年	ゆふがお物語/「砂丘を愛した男」	大江賢次	輝文館	自叙伝	○	○	
154	1942(昭和17)年	北海道詩人集/「夜の砂丘にて」	鈴木政輝・東郷克郎	山雅社	詩	△	?	
155	1942(昭和17)年	清水登之画集/「砂丘」	清水登之	美術工芸会	絵	△	?	
156	1942(昭和17)年	青年記/「砂丘」	渡辺曠彦 著	謡文堂	小説	○	×	
157	1942(昭和17)年	夫婦の記録：書き下ろし長編小説/「砂丘物語」	泉本三樹	六芸社	小説	○	?	
158	1942(昭和17)年	アサヒカメラ33(1)(190)/「砂丘」	朝日新聞出版；朝日新聞社／伊藤義雄	朝日新聞出版	写真	○	?	
159	1942(昭和17)年	新指導者5(3)/「砂丘」	精神科学研究所出版部／渡邊曠彦	精神科学研究所出版部	小説	△	×	
160	1943(昭和18)年	国民詩選：昭和18年版/「砂丘にて」	興亜書局／秋山清	興亜書局	詩	○	×	
161	1943(昭和18)年	日本詩壇11(8)(116)/「砂丘」	日本詩壇発行所／海老名洋兒	日本詩壇発行所	詩	○	?	
162	1943(昭和18)年	青天祭/「砂丘」	前田夕暮 著	明治美術研究所	小説	○	×	
163	1946(昭和21)年	大衆文芸/短篇「砂丘」	新鷹会／山下スマ子	新鷹会	小説	○	×	
164	1946(昭和21)年	三田文学20（8）（11月號）/「コノ砂丘ノカゲニ」	長光太	三田文学会	詩	○	?	
165	1947(昭和22)年	新しい愛情の設計/「寄居濱の砂丘に立ちて 」	式場隆三郎 著	昭和書房	自叙伝	○	×	
166	1947(昭和22)年	自然と短歌/「鳥取大砂丘」	斎藤瀏 著	人文書院	短歌	○	△	
167	1947(昭和22)年	随筆北海道　続/「砂丘の童話」	更科源蔵 編／河田楨	青磁社	小説・童話	○	×	
168	1947(昭和22)年	積日/「砂丘」「砂の上」「鳥取まで」	前川佐美雄 著	青磁社	短歌	○	○	
169	1947(昭和22)年	迢空歌選/「砂丘の木」	釈迢空 著	養徳社	詩	○	?	
170	1947(昭和22)年	砂丘	吉田正	風土句報社	小説	△	×	
171	1948(昭和23)年	谿：歌集/「砂丘」	鈴木幸輔 著	組合書店	短歌	○	?	
172	1948(昭和23)年	自由詩人3(12)/「砂丘」	自由詩人社／小泉哲也	自由詩人社	詩	○	?	
173	1948(昭和23)年	文芸丹頂1(2)/「三日月砂丘」	丹頂書房／椿實	丹頂書房	小説	○	?	
174	1949(昭和24)年	われ泣きぬれて/「砂丘の花花」	泉本三樹	偕成社	小説	○	?	
175	1949(昭和24)年	婦人生活3(8)/「砂丘」	婦人生活社 [編]	婦人生活社	詩	○	?	
176	1949(昭和24)年	アサヒカメラ34(2)(195)/「砂丘」	朝日新聞出版；朝日新聞社／菅野喜勝	朝日新聞出版	写真	○	×	
177	1949(昭和24)年	砂丘群像	植田正治	東京国立近代美術館	写真	○	○	
178	1949(昭和24)年	アルス写真年鑑. 1949年版/「砂丘」	アルス／福地誠一	アルス	写真	○	?	
179	1949(昭和24)年	瀬戸内海叙情：柴田忠夫詩集/「砂丘の詩」	柴田忠夫 著	沢本書房	詩	△	?	
180	1949(昭和24)年	蛸壷４（11）/「砂丘行」	蛸壷発行所／正木投扇	蛸壷発行所	紀行文	○	○	
181	1949(昭和24)年	砂丘のかげに	作：武石佳之　絵：安里満	日本教育画劇社	紙芝居	△	?	
182	1949(昭和24)年	フォトグラフィ. 1(3)(3)/「砂丘で」	フォトグラフィ／ 藤見幸男	フォトグラフィ	写真	△	?	
183	1950(昭和25)年	「砂丘」	トーカイ・シロー編	鳥取砂丘詩話会	詩	△	○	
184	1950(昭和25)年　阿部知二が6月、鳥取砂丘を訪れる。阿部は当時、婦人公論に長編「砂丘」を掲載。							
185	1950(昭和25)年	こども世界. 5(5)/「砂丘とのたたかい」	実業之日本社	実業之日本社	童話	○	○	
186	1950(昭和25)年	詩学. 5(6)(29)/「砂丘」	詩学社／村次郎	詩学社	詩	△	?	
187	1950(昭和25)年	財政15(7)/「随筆　梅花･砂丘･鮑」	大蔵財務協会／田宮虎彦	大蔵財務協会	紀行文	○	×	
188	1950(昭和25)年	日本未来派(38)/「砂丘」	日本未来派の会・日本未来派発行所／及川均	日本未来派	詩	△	?	
189	1951(昭和26)年	緑日：歌集/石狩川砂丘地帯（二十三首）	田辺杜詩花 著	白楊社	詩	○	×	
190	1951(昭和26)年	砂丘ヌード	植田正治	東京国立近代美術館	写真	○	○	
191	1951(昭和26)年	早春/「鳥取砂丘」	早春社	早春社	俳句	○	○	
192	1951(昭和26)年	詩学. 6(11)(44)/「女の砂丘」	詩学社／近藤多賀子	詩学社	詩	△	?	
193	1951(昭和26)年	短歌研究8(10)/「鳥取砂丘」	短歌出版社・日本短歌社／尾山紫丹	短歌研究会	短歌	○	○	
194	1951(昭和26)年	アサヒカメラ.36(8)[(216)]/「砂丘にて」	朝日新聞出版　朝日新聞社／ 次広勝	朝日新聞出版	写真	○	?	
195	1951(昭和26)年	アサヒカメラ臨時増刊寫眞傑作集/「砂丘」	朝日新聞出版　朝日新聞社／中藤敦	朝日新聞社	写真	○	?	
196	1951(昭和26)年	足音：服部忠志歌集/「砂丘」	服部忠志	日本文教出版	短歌	△	?	
197	1951(昭和26)年	交替詩派. 3(5)/「山陰旅行」「早春の砂丘に在る日」	交替詩社／小野菊惠／鈴木寅藏	交替詩社	詩	△	?	
198	1952(昭和27)年	日本板畫第一輯/「砂丘」	笹島喜平	東京国立近代美術館	絵	△	×	
199	1952(昭和27)年	さくらんぼ大将. 第2部/「砂丘でひろった少女」	菊田一夫 著[他]	宝文館	小説	○	○	
200	1952(昭和27)年	いさごぢ：歌集/「砂丘」（五首）	田中隆尚 著	河出書房	短歌	○	?	
201	1952(昭和27)年	日本の旅/「砂丘のある湯野濱温泉」	戸塚文子 著	要書房	紀行文	○	×	
202	1952(昭和27)年	軽野：歌集/「保養農園構外砂丘・保養農園構外鹿島灘」	村尾圭介	ぬはり社	写真	○	×	
203	1952(昭和27)年	アサヒカメラ. 37(10)(230)/「砂丘」	朝日新聞出版,朝日新聞社／近藤龍夫	朝日新聞出版	写真	○	×	
204	1952(昭和27)年	日本カメラ. (28)/「砂丘」	日本カメラ社／古徳博美	日本カメラ社	写真	○	○	
205	1952(昭和27)年	太陽少年3(3)/「海辺の正義熱血 砂丘にあがる凱歌」	妙義出版社／梶野悳三；中村猛雄	妙義出版社	小説	○	×	
206	1952(昭和27)年	アサヒカメラ臨時増刊アサヒカメラ年鑑/「砂丘」	朝日新聞出版,朝日新聞社／中川潤吉	朝日出版社	写真	○	×	
207	1952(昭和27)年	日本カメラ. (17)/「砂丘連作」	日本カメラ社／池内広吉	日本カメラ社	写真	○	○	
208	1952(昭和27)年	アサヒカメラ. 37(5)(225)/「千浜の大砂丘」	朝日新聞出版,朝日新聞社／近藤龍夫	朝日新聞出版,	写真	○	×	
209	1952(昭和27)年	アサヒカメラ.臨時増刊國際寫眞サロン/「砂丘」「砂丘」	朝日新聞出版,朝日新聞社/鈴木源太郎/ 川越研二	朝日新聞出版	写真	○○	○×	
210	1952(昭和27)年	アサヒカメラ. 37(6)(226)/「砂丘」「砂丘」	朝日新聞出版,朝日新聞社／堀家吉夫／池内広吉	朝日新聞出版	写真	○○	○○	
211	1952(昭和27)年	アサヒカメラ. 37(7)(227)/「砂丘」	朝日新聞出版,朝日新聞社／奥元次	朝日新聞出版	写真	○	○	
212	1952(昭和27)年	みづゑ. (563)/「陽光の砂丘」	美術出版社／マネシエ	美術出版社	絵	?	?	
213	1952(昭和27)年頃～植林が始まる							
214	1953(昭和27)年	日本未来派.(54)/「砂丘の遺骨」	日本未来派の会／日本未来派発行所／池田克己	日本未来派	詩	△	?	
215	1953(昭和27)年	アサヒカメラ. 38(2)[(234)]/「砂丘を行く」	朝日新聞出版・朝日新聞社／原田康次	朝日新聞出版	写真	○	×	
216	1953(昭和27)年	アサヒカメラ. 38(4)[(236)]/「冬の砂丘」	朝日新聞出版・朝日新聞社／杵島隆	朝日新聞出版	写真	○	○	
217	1953(昭和27)年	アサヒカメラ. 臨時増刊國際寫眞サロン/「砂丘」	朝日新聞出版・朝日新聞社／橋本秀雄	朝日新聞出版	写真	○	○	
218	1953(昭和27)年	個性. (1)/「砂丘」	個性同人会／栗原紀子	個性同人会	詩	△	?	
219	1953(昭和27)年	日本カメラ. (34)/「砂丘風景のまとめ方と写し方」	安藤勝；青木一郎；高山雄次；川崎雅仁；岡本幾次郎；中宿俊昭	日本カメラ社	写真	○	×	
220	1953(昭和28)年	二十一歳/「砂丘」	西保恵以子	帝塚山文学会	短歌	○	?	
221	1953(昭和28)年	錦木：歌集/「砂丘・七首」	村田登美 著	遠天社	短歌	△	?	
222	1953(昭和28)年	新日本歌人. 8(9)(88)/「アカシヤと砂丘」	新日本歌人協会 編／渡辺順三	新日本歌人協会	短歌	○	×	
223	1953(昭和28)年	短歌研究. 10(9)/30首「ただれる砂丘」	短歌研究社/山田あき	短歌研究社	短歌	○	×	
224	1953(昭和28)年	小説新潮. 7(14)/特集・故郷小説 砂丘の幻(越後)」	新潮社／坂口安吾	新潮社	小説	△	×	
225	1953(昭和28)年6月　「日本民芸協会全国大会」が鳥取で開催。英国の陶芸家バーナード・リーチが訪れ、砂丘の絵を描く。初めて外国人が砂丘の絵・文章を現した人物。							
226	1953(昭和28)年	ミニフォト. 1(2)/「花火のある砂丘」「九十九里ケ濱」	光線社/八木治/朝倉隆	光線社	写真	△	×	
227	1954(昭和29)年	砂丘に咲く：近藤多賀子詩集/「砂丘に咲く」「月夜砂丘」	近藤多賀子	日本未来派発行所	詩	○	?	
228	1954(昭和29)年	冬の銀河：近藤芳美歌集/「砂丘」	近藤芳美 著	白玉書房	短歌	○	?	
229	1954(昭和29)年	星の肖像：散文詩集. 1941-42／砂丘	木原孝一 著	昭森社	詩	○	?	
230	1954(昭和29)年	日本の地図：歌集/「アカシヤと砂丘」	渡辺順三 著	新興出版社	詩	○	×	
231	1954(昭和29)年	砂丘（句集）	大村杜六 著	大村節次郎（発行者）	俳句	△	○	
232	1954(昭和29)年	新稲葉集・第2集	鳥取歌話会 編	円坐荘	短歌	○	○	
233	1954(昭和29)年	アサヒカメラ39(4)(248)/「雨上りの砂丘」	朝日新聞出版・朝日新聞社/広瀬光二	朝日新聞出版	写真	○	×	

234	1954(昭和29)年	新墾：短歌雑誌. 24(7)/「鳥取砂丘」	編集委員会 編/井上美子	新墾発行所	紀行文	○	○
235	1954(昭和29)年	新懇：短歌雑誌/「鳥取砂丘」	編集委員会	新懇発行所	短歌	○	○
236	1955(昭和30)年	アサヒカメラ. 40(2)(258)/「千浜の砂丘」	朝日新聞出版・朝日新聞社/植松俊夫	朝日新聞出版	写真	○	×
237	1955(昭和30)年	暗夜群像/「砂丘に囁く」	大林清 著	東方社	小説	○	×
238	1955(昭和30)年	終末記：詩集/「砂丘のむこうに」	長島三芳 著	国文社	詩	○	?
239	1955(昭和30)年	風景撮影の実技/「砂丘」	魚住励	玄光社	写真	○	×
240	1955(昭和30)年	湘南伊豆文学散歩/「砂丘」	野田宇太郎 著	英宝社	紀行文	○	×
241	1955(昭和30)年	日本展望1955年版/「冬の砂丘（鳥取）」	毎日新聞社・日本展望研究委員会	毎日新聞社	写真	○	○
242	1955(昭和30)年	花は偽らず/「砂丘のわかれ」	藤沢桓夫 著	東方社	小説	○	?
243	1955(昭和30)年	磔：牧章造詩集/「砂丘にて」	牧章造 著	牧章造	詩	○	?
244	1955(昭和30)年	遭遇：歌集/「太平洋砂丘地帯」	岡山巌 著	長谷川書房	短歌	△	×
245	1955(昭和30)年	短歌. 2(1)/「三十首 砂丘」	角川文化振興財団/遠山光榮	角川文化振興財団	短歌	△	?
246	1955(昭和30)年	日本カメラ. (56)/月例カラーフォト入賞作品集「砂丘」	日本カメラ社/池内広吉；中村立行	日本カメラ社	写真	○	○
247	1955(昭和30)年	短歌芸術. 11(7)/「砂丘」	芸術生活社/井上一二	芸術生活社	短歌	△	○
248	1955(昭和30)年	女学生の友. 6(4)/「砂丘にて」	小学館 [編]／藤田ミラノ；中条雅二	小学館	詩	○	?
249	1955(昭和30)年	少女ブック. 5(10)/「友情絵物語 砂丘の歌」	集英社/大屋典一；藤形一男；一色次郎	集英社	小説	△	×
250	1955(昭和30)年	内部. (2) /「砂丘」	内部社/井口惠之	内部社	小説	△	×
251	1955(昭和30)年	詩学. 10(10)(92)/「砂丘」	鳥見迅彦	詩学社	詩	○	?
252	1955(昭和30)年	旅. 29(11)/「御前岬の砂丘」	日本旅行倶楽部/曾宮一念	新潮社	紀行文	○	×
253	1956(昭和31)年	津軽短歌/「砂丘」	津軽短歌社	津軽短歌社	短歌	○	×
254	1956(昭和31)年	実践国語/「鳥取砂丘」	実践国語研究所	穂波出版社	短歌	○	○
255	1956(昭和31)年	青い壁画：吉田漱歌集/「砂丘」	吉田漱	白玉書房	短歌	○	?
256	1956(昭和31)年	地表：歌集/「鳥取砂丘」	佐藤佐太郎	白玉書房	短歌	○	○
257	1956(昭和31)年	芸術新潮/「砂丘」	新潮社/里吉圓蔵	新潮社	写真	○	?
258	1956(昭和31)年	旅30(7)/「砂丘の造形美」	新潮社,ジェイティービー,日本交通公社 ,日本交通公社,日本旅行協会	新潮社	写真	○	×
259	1956(昭和31)年	遊星人M/「砂丘の家」	香山滋	春陽堂書店	小説	△	?
260	1956(昭和31)年	峠の姉妹星/「涙の砂丘」	富永一朗	きんらん社	物語（漫画	○	×
261	1956(昭和31)年	春雷/「砂丘の蔭」	加藤武雄	東方社	小説	△	×
262	1956(昭和31)年	銀砂子；歌集/「鳥取砂丘」	平野梶子	一路会	短歌	○	○
263	1956(昭和31)年	池上光雄詩集/「砂丘」	池上光雄	薔薇科社	詩	△	?
264	1956(昭和31)年	あれから10年/「砂丘に三日三晩」	宮崎清隆	東京ライフ社	自叙伝	○	×
265	1956(昭和31)年	プシケ：詩集/「砂丘」	渋谷修平	国立青森療養所プシケ詩会	詩	○	?
266	1956(昭和31)年	屋上泉：歌集/「砂丘」	鈴江幸太郎	林泉短歌会	詩	○	?
267	1956(昭和31)年	写真で見る日本５/「中田島の砂丘」	日本文化出版社	日本文化出版社	写真	○	×
268	1956(昭和31)年10月　志賀直哉が再度鳥取砂丘を訪れる。						
269	1956(昭和31)年	萬緑11(1)（83）/鳥取砂丘	萬緑運営委員会/松原文子	萬緑発行所	紀行文	○	○
270	1956(昭和31)年	アサヒカメラ41(1)（269）/「砂丘」	朝日新聞出版,朝日新聞社/中村定邦	朝日新聞出版	写真	○	○
271	1956(昭和31)年	捩子（25）/砂丘と海	捩子文学会/村上卓児	捩子文学会	詩	○	?
272	1956(昭和31)年	婦人生活.10(8)/「砂丘に燃える恋」	砂丘に燃える恋婦人生活社 [編]	婦人生活社	小説	○	○
273	1956(昭和31)年	日本カメラ82/「砂丘」	日本カメラ社/村山綾男	日本カメラ社	写真	○	?
274	1956(昭和31)年　8月20日山下清が初めて来訪。						
275	1957(昭和32)年	日本カメラ(96)/「砂丘ABC」	日本カメラ社/秋本哲生	日本カメラ社	写真	○	×
276	1957(昭和32)年	十九歳の風が吹く頃：詩集/「砂丘の壺」	熊谷一男	国文社	詩	○	?
277	1957(昭和32)年	蒼雪：歌集/「砂丘」	川久保俊一	短歌新聞社	短歌	○	?
278	1957(昭和32)年	津軽短歌4（7）/「砂丘」	津軽短歌社/瀬木史郎	津軽短歌社	短歌	○	?
279	1957(昭和32)年	日本カメラ95/「雨の砂丘」「足跡」	日本カメラ社/杉本和也/植田正治	日本カメラ社	写真	○○	○?
280	1957(昭和32)年	随筆紀行名作集/「砂丘の童話」	串田　孫一（編）内田武夫（挿絵）	あかね書房	童話	○	×
281	1957(昭和32)年	宮本幹也選集第17巻/「砂丘の茶屋」	宮本幹也	桃源社	小説	△	×
282	1957(昭和32)年	算士秘伝/「砂丘の歌」	新田新次郎	大日本雄弁会講談社	小説	○	×
283	1957(昭和32)年	月；服部美智子歌集/「鳥取砂丘」	服部美智子	龍短歌会	短歌	○	○
284	1957(昭和32)年	青い舌：句集/「砂丘無限」	小笠原樹樹	冬の日社	俳句	△	?
285	1957(昭和32)年	野獣街/「砂丘と死」	宮本幹也	光風社	小説	○	?
286	1957(昭和32)年	冬の意志：歌集/「鳥取砂丘」	野上久人	短歌新聞社	短歌	○	○
287	1957(昭和32)年	凍虹：田中大治郎歌集/「鳥取砂丘」	田中大治郎	短歌新聞社	短歌	○	○
288	1957(昭和32)年	女の海：詩集/「鳥取砂丘にて」	鈴木一郎	八木書店	詩	△	○
289	1957(昭和32)年	温床：歌集/「砂丘」	岸田隆	新星書房	短歌	△	×
290	1957(昭和32)年	作家・画家の随筆温泉案内/砂丘見物から三朝温泉へ一鳥取一	自由国民社/長谷川三千春	自由国民社	紀行文	○	○
291	1957(昭和32)年	天馬（３）/「砂丘」	天馬発行所/墨作次郎	天馬発行所	詩	△	?
292	1957(昭和32)年	芸術新潮8（4）/「砂丘」	新潮社/緑川洋一	新潮社	写真	△	?
293	1957(昭和32)年	青樫19（2）/「花の砂丘」	青樫社/本田美代	青樫社	紀行文	○	△
294	1958(昭和33)年	アサヒカメラ43（4）（299）/「砂丘」	朝日新聞社・朝日新聞出版/林忠彦	朝日新聞出版	写真	○	○
295	1958(昭和33)年	アサヒカメラ43(12)（307）/「砂丘にて」「月明けの中田島砂丘にて」「夕暮れの砂丘にて」	朝日新聞出版・朝日新聞社/大西幹夫/石田正男/瀬藤昭雄	朝日新聞社	写真	○△○	?×?
296	1958(昭和33)年	秋のめざめ/「砂丘風紋」	円地文子	毎日新聞	小説	○	○
297	1958(昭和33)年	雪陽炎：歌集/「砂丘」	渡辺れつ	白玉書房	短歌	○	?
298	1958(昭和33)年	日本ぶらりぶらり/「鳥取の砂丘」	山下清/式場隆三郎　編	文芸春秋新社	紀行文	○	○
299	1958(昭和33)年	わが青春の懺悔録/「世間のなバカと利口のわかれ道だった。海原をみおろす白い砂丘と甘美なメロディーと」	近藤日出造/渋沢秀雄	雪華社	自伝小説	○	?
300	1958(昭和33)年	捜索者：布施常彦詩集/「砂丘」	布施常蔵	思潮社	詩	○	×
301	1958(昭和33)年	短歌研究15（10）/「砂丘」	日本短歌社/清水正男	短歌研究社	短歌	○	○
302	1958(昭和33)年	短歌５（４）/「北の砂丘」	角川文化振興財団、kadokawa,角川文芸出版、角川書店/北澤郁子	角川文化振興財団	短歌	○	×
303	1958(昭和33)年	日本カメラ（110）/「砂丘の残雪」「砂丘に映る影」	日本カメラ社	日本カメラ社	写真	○○	○?
304	1958(昭和33)年	旅32（7）/「砂丘と松林の美しい木津温泉」	新潮社・ジェイティービー・日本交通公社・日本旅行協会/渡辺公平	新潮社	紀行文	○	×
305	1958(昭和33)年	日本カメラ（113）/「砂丘」	日本カメラ社/植田正治	日本カメラ社	写真	○	?
306	1958(昭和33)年	別冊アトリエ　杉村恒ヌード作品集/「海と砂丘」	アトリエ出版社・アトリエ社・アルス	婦人画報社	写真	○	○
307	1959(昭和34)年	花のサラリーマン/「砂丘と花」	源氏鶏太	新潮社	小説	○	×
308	1959(昭和34)年	大阪城物語/「砂丘の闘い」	村上元三	光文社	小説	○	×
309	1959(昭和34)年	感傷旅行/「沈む砂丘」	北沢郁子	四季書房	短歌	○	×
310	1959(昭和34)年	相貌：歌集/「砂丘」	早瀬譲	八洲出版	短歌	○	?
311	1959(昭和34)年	海は笑っているよ/砂丘の人	鹿島孝二	東京文芸社	小説	○	×
312	1959(昭和34)年	松心火：歌集/「砂丘」	長沢一作	四季書房	短歌	△	?
313	1959(昭和34)年	灰色の谷間の中で：詩集/「砂丘」	毛利道雄	歌と評論社	短歌	△	?
314	1959(昭和34)年	女学生の友10（2）/「美しき砂丘に立ちて」	小学館/清田昌弘・丸山ひでゆき	小学館	小説	○	?
315	1959(昭和34)年	俳句8（2）/「山陰・砂丘」	角川文化振興財団/田原千暉	角川文化振興財団	短歌	△	?
316	1959(昭和34)年	アサヒカメラ44(4)(311)/「砂丘」	朝日新聞出版・朝日新聞社/松任秀樹	朝日新聞出版	写真	△	?

317	1959(昭和34)年	アサヒカメラ44(11)(318)/「千浜砂丘にて」	朝日新聞出版・朝日新聞社/松永史郎	朝日新聞出版	写真	○	×	
318	1959(昭和34)年	アサヒカメラ44(3)（310）/「砂丘」	朝日新聞出版・朝日新聞社/原田康次	朝日新聞出版	写真	○	×	
319	1959(昭和34)年	アサヒカメラ44(2)(309)/「私の見た砂丘」	朝日新聞出版・朝日新聞社/矢倉孝義	朝日新聞出版	写真	○	?	
320	1959(昭和34)年	文芸春秋37（7）/「砂丘もし命あらば」	文芸春秋新社/足立正	文芸春秋	自叙伝	△	○	
321	1959(昭和34)年	酒放談/「鳥取砂丘と有島武郎の歌碑」	酒放談社/（松露庵主人）	酒放談社	自叙伝	○	○	
322	1959(昭和34)年	日本カメラ（131）/「旅情豊か山陰路」	日本カメラ社/古徳博美	日本カメラ社	写真	○	○	

3－2　年代ごとの「砂丘」イメージの変遷

表3-1-1で示した砂丘に関する文芸作品について、年代ごと（1910年代・1920年代・1930年代・1940年代・1950年代）に①作品数、作品の種類、②作品で描写される場所の起伏の大きさ、描かれている具体的な場所、の3つの項目について検討する。

（1）年代ごとの「砂丘」を扱った作品数と種類の推移

作品数は、1910年代まで少なく1920年代にかけてと1950年代にかけて増えている。作品内容を見てみると、1920年代の詩、1950年代の写真・絵、が大きく増加している。

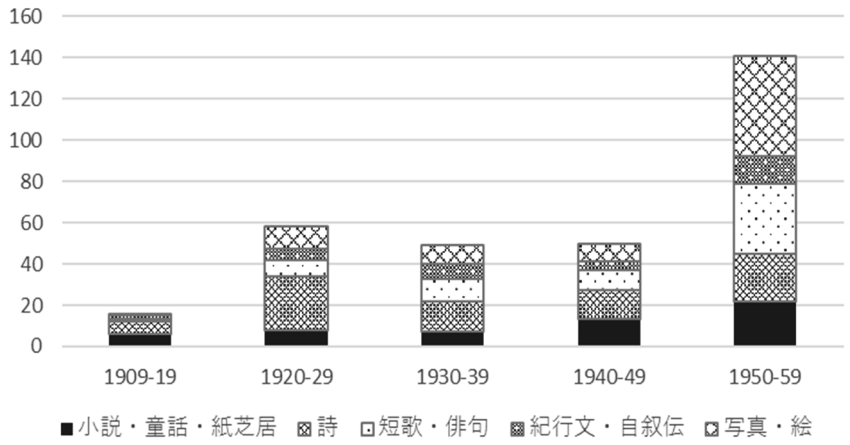

図3-2-1　作品数と作品種類の推移

（2）作品で描写される場所の起伏の大きさ

第１章で、現代の砂丘イメージの特徴の一つとして起伏が大きいという点があげられた。この特徴について、時代ごとの変化を検討するため、作中の表現や描写から、上述のとおり、砂丘の起伏の大きさから、○＝大きな起伏あり、△＝小さな起伏・起伏なし、？＝不明と分類した。図3-2-2より、現代の砂丘イメージにある起伏の大きいものが徐々に描かれている比率が高くなっていることが分かる。1910年代･1920年代については､「当時は「砂丘」という言葉が慣用されていない時代。昭和初期の国語辞典には「砂丘」の索引はない」（大村1993）とあり、当時の文芸作品に海辺や砂浜などのほとんど平坦な海岸の描写があったこともそのためと思われる。しかし、図3-2-2から、作中の砂丘を取り上げるうえで起伏の重要性や存在感は大きくなっていると考えられる。1950年代には、8割近くの作品で、起伏の大きい砂丘が描かれている。

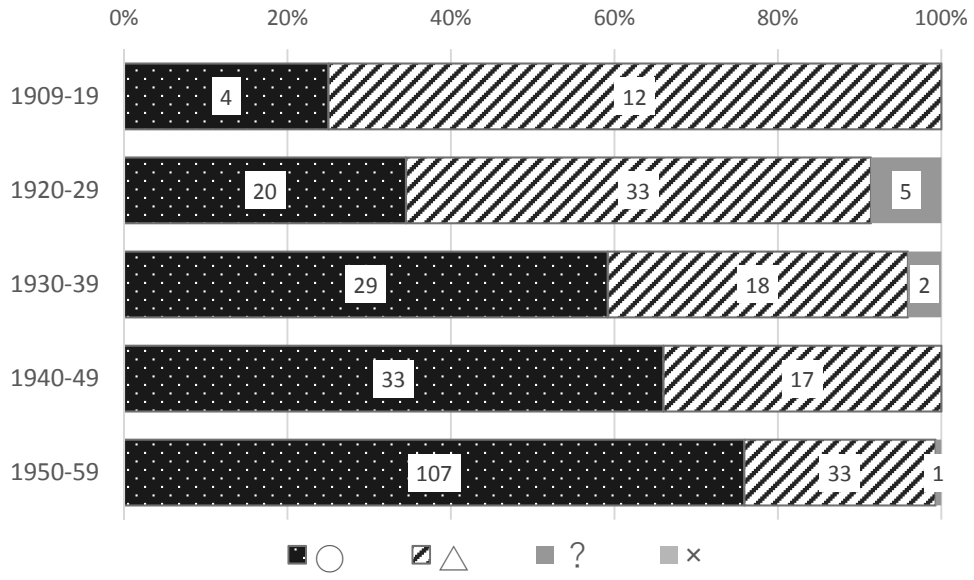

図3-2-2　描写されている起伏の大きさの推移

（3）描かれている具体的な場所

文芸作品に描かれている場所が、具体的にわかるかどうか、また場所が示されている場合、鳥取砂丘かそれ以外かについて、年代ごとの割合を示している。（○＝鳥取砂丘　△＝複数の場所を掲載　？＝不明　×＝その他の場所）

図3-2-3は年代ごとに描かれる砂丘の具体的な場所について、不明の箇所を含め全体を示し、図3-2-4は不明の箇所を除いて示した。

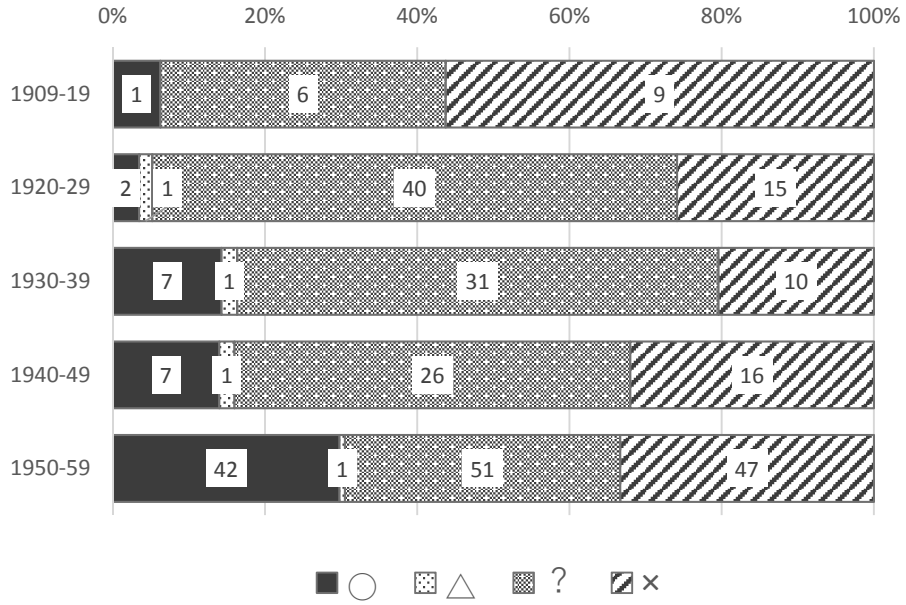

図3-2-3　描かれる砂丘の場所の割合

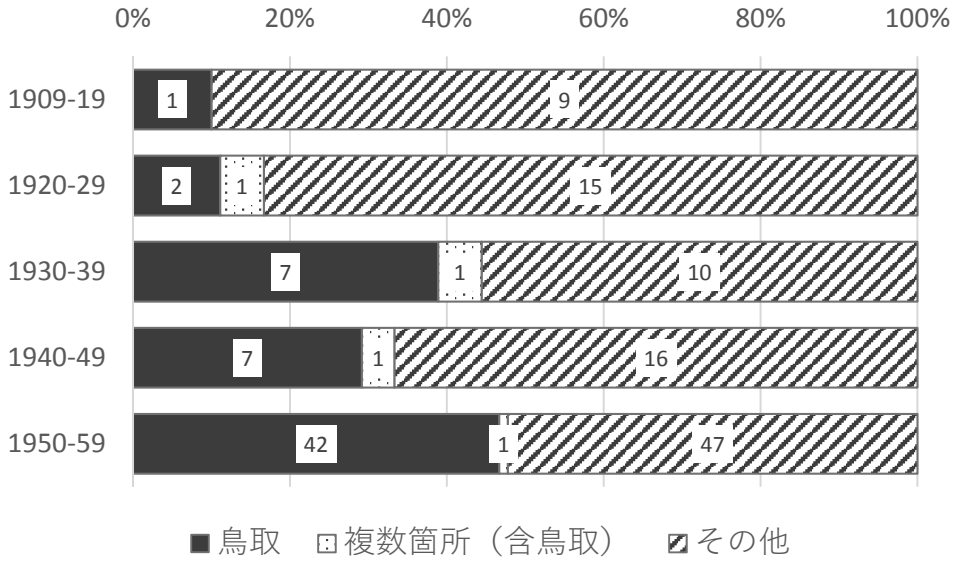

図3-2-4　描かれる砂丘の場所の割合（場所不明の箇所を除く）

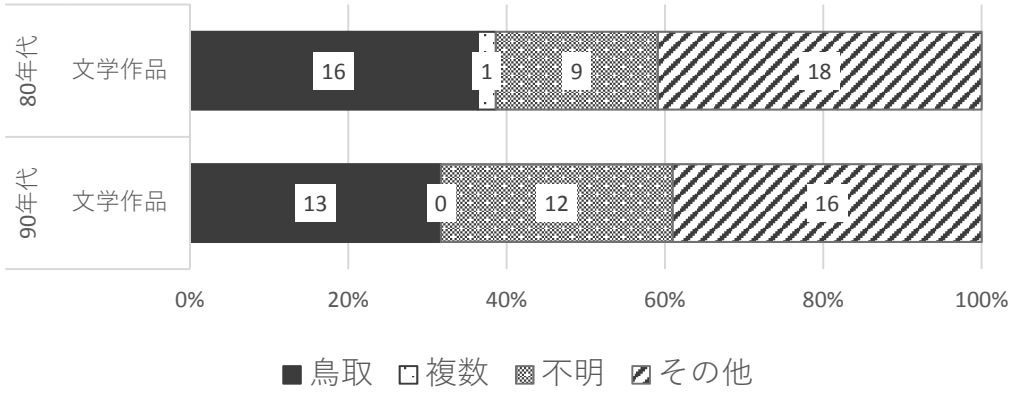

図3-2-5　描かれる砂丘の場所（1980、90年代）

まず1910年代は、地名がわかる砂丘としてとりあげられた10件の大半が鳥取砂丘以外であり、鳥取砂丘はわずかに１件である。その他の砂丘は、相模、三浦三崎、鹿島、九十九里浜などが挙げられた。砂丘と名の付く場所もあれば、海岸や浜辺の一部である場合もあり、現在のイメージに比べ、「砂丘」は幅広く色々な場所を指していることが伺える。その中で1930年代ごろから鳥取砂丘を取り上げる割合は増えている。そして、場所不明の砂丘がどの年代でも３割以上ある点も特徴的である。短歌や詩など場所的な説明が重要でない場合があることも要因と考えられた。

ちなみに、1990年代・1980年代について同じ条件で資料を検索し、鳥取砂丘が描かれている割合を示すと、図3-2-5のようになる。1980年代、1990年代ともに、場所のわかる砂丘に占める鳥取砂丘の割合は４割強であり、1950年代の比率と変化はない。文芸作品の数は、1950年代が141件なのに対し、1980年代は44件、1990年代は41件と減少している。

3－3　絵・写真から砂丘イメージについて

3－2では、文芸作品で砂丘がとりあげられた件数の年代による変化、描かれた砂丘の起伏量の年代による変化、鳥取砂丘の描かれる割合の変化をみてきた。そこで、年代ごとに、砂丘としてとりあげられているもののイメージを具体的に明らかにし、年代ごとに砂丘のイメージが具体的にどのように変化したのかについて、絵画・写真で示された砂丘について検討を行う。なお、1920年代以降は、絵画・写真の数は多くなるが、このうち、絵画は文学雑誌に掲載されているもの、美術展の作品をとりあげ、写真については、アサヒカメラに掲載されたものが各年代に見られるため、それをとりあげ、比較することとした。

（1）1910年代の絵画

図3-3-1 プリユー /砂丘 /1913年 / 日本実業新報（191）

図3-3-2　鶴田吾郎 / 砂丘 /1916年 / 層雲５（11）

1910年代の絵は、この2点のみだった。図3-3-1で描かれている砂丘は、海岸沿いのようであるが、起伏らしいものはなく、民家や松のほうが印象的である。一方、図3-3-2は、砂面しかわからないのだが、こちらも人と牛が中央に描かれている。1910年代では、砂や砂の起伏に着目しているわけではなく、人々の生活の場としての砂丘が描かれている。非日常の空間との意識は感じられない。

（2）1920年代の絵画・写真

図3-3-3については、砂の斜面に草が生い茂り、左側に民家と防砂柵が見える。砂山のような印象だが、大きな起伏とは感じられない。図3-3-4についても、砂面があり、そこに民

家が立っているため、大きな起伏ではなさそうである。1910年代同様、生活の場としての砂丘が描かれている点が特徴的である。また、図3-3-5については、写真雑誌「アサヒカメラ」に掲載されたものである。こちらは、起伏のある砂面を描写した現代のイメージに近いものだと感じられた。

図3-3-3　島田卓二/砂丘/1921年/社会及国家(3月號)

図3-3-4　安堵豊山/砂丘の家/1925年/茨城美術展覧会図録第2回

図3-3-5　國領榮一/砂丘に遊ぶ小供/1926年/アサヒカメラ2（4)(7)

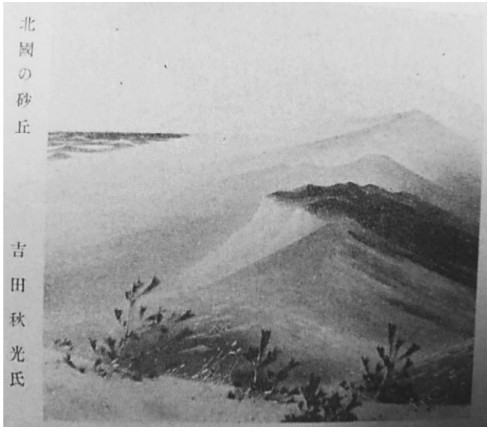

図3-3-6　吉田秋光/北國の砂丘/1934年/白日第8年(12月)

図3-3-7　山城清次/砂丘/1937年/アサヒカメラ24（1）

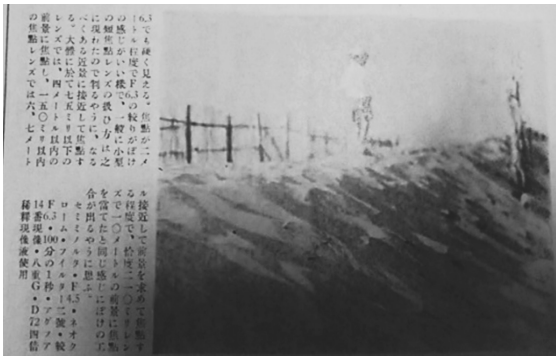

図3-3-8　下島勝信/砂丘の秋/1939年/アサヒカメラ28（5)(164)

（３）1930年代の絵画・写真

図3-3-6は、砂丘の大きな起伏があり、図3-3-7は小さな砂の起伏に草が茂っている。一方、図3-3-8では、砂丘の上を子供が歩き、柵も建てられている。起伏がしっかりとあり現在の砂丘イメージに近いものだと感じた。1930年代の３つの写真からは、生活の場というイメージが少し薄らいで、起伏のある砂、というイメージが拡大してきている。

（４）1940年代の写真

1940年代になると、1930年代よりも起伏量が多い写真が増えている。図3-3-9、図3-3-10、図3-3-11では、子供が砂地で遊んでいる様子が描かれているが、図3-3-11は、起伏がなく“砂濱“とされて、同ページにあった図3-3-10とは、しっかり区別がされていたようであった。

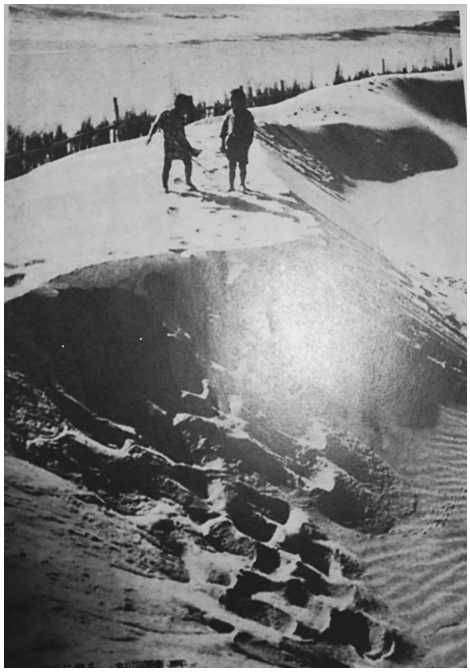

図3-3-9　木川田勝衛/1940年/砂丘に戯る/アサヒカメラ30(6)(177)

図3-3-10　伊藤義雄/砂丘/1942/アサヒカメラ33（1）(190)伊藤義雄／砂丘

図3-3-11　※補足：砂濱に遊ぶ/八木常治/1942年/アサヒカメラ33（1）(190)

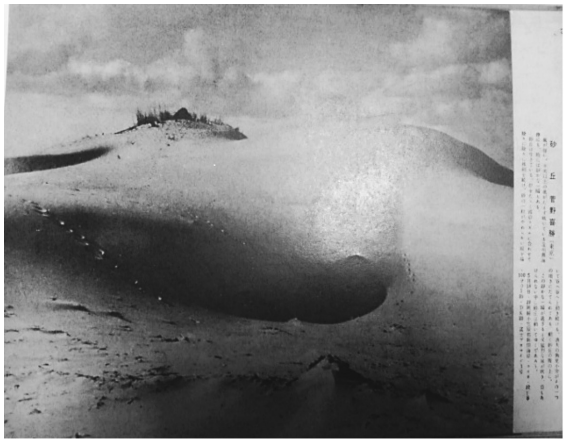

図3-3-12　菅野喜勝/砂丘/1949年/アサヒカメラ34（2）(195)

（5）1950年代の写真

1950年代前半は、現代のイメージに近い砂丘そのものの造形美を描いたものが多く、起伏も大きく描かれている。1950年代後半には、砂丘の起伏だけでなく、風紋、砂丘にできたオアシス、足跡など、より細かい部分に着目した作品が多くなっている。図3-3-15は、鳥取出身の植田正治によるもので、「かつては、乙女の肌のような曲線美を誇っていた砂丘も最近の観光ブームでは、ご覧のとおりです。足あとも、この位になると、かえって美しいと思いました。」と記述があった。さらに、その翌年発行の毎日新聞社（1958）によると「ソーシャル・ツーリズムの波によって砂丘を訪れる人は、年間100万人を超えようとしている」とあり、相当数の観光客の来訪とともに、写される砂丘の姿にも変化がみられる。

図3-3-13　近藤龍夫／千浜の大砂丘／1952年／アサヒカメラ（37）（5）（225）／1952

図3-3-14　原田康次／砂丘を行く／1953／アサヒカメラ38（2）（236）

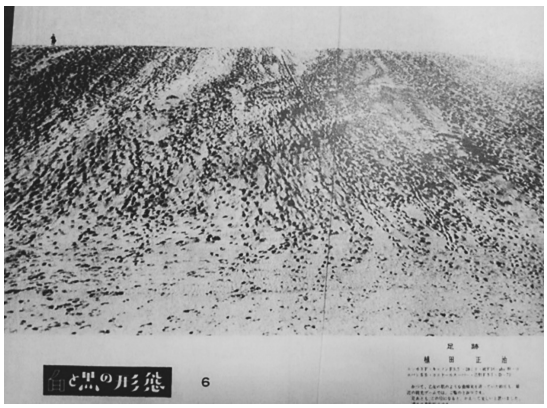

図3-3-15　植田正治／足跡／1957年／日本カメラ（95）（310）

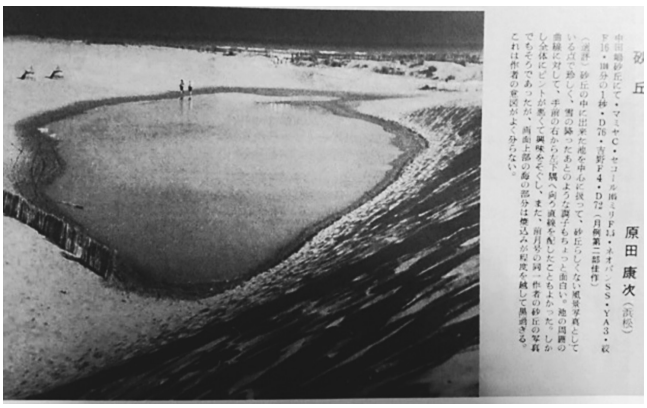

図3-3-16　原田康次／砂丘／1959年／アサヒカメラ44（3）

3－4　1910－20年代の文学作品にみる「砂丘」イメージ

ここまで砂丘を扱った文芸作品の数、描かれる場所と、絵画・写真で描かれた砂丘の具体的な姿を見てきた。その中で、1930年代以降、徐々に起伏のある砂、人の生活空間ではない場所のイメージが拡大していったことが確認できた。

1910－20年代には、民家や人の営みが描かれている絵画もあり、それ以後とは違うイメー

ジで「砂丘」が捉えられていた可能性がある。この時期、「砂丘」についてどのよう共通イメージがあったのか、1910－20年代の文学作品の中で、砂丘が登場する描写から、いくつかの特徴をあげることができる。

まず、一つ目に作品の中で「恐ろしい」「病」「さみしさ」などというワードで示される暗い砂丘のイメージである。病や悩みを抱えた主人公が、砂丘のある地域にやってくる、そして砂丘に来て、自然の作りだす砂丘に圧倒され恐れる、さみしさや悲しさの思いに浸たるという展開がいくつかあった。例えばこのような描写がある。

「死期の近づいた詩人が、冷たく澄んだ眼をあげて、「どれ、俺にももう一度見せて呉れ。」といつて、痩せた體軀を無理に起こして、鐵製のベツトの縁に凭れて見やつた海の色、「最後の思ひ出に「砂丘」と題した作を書きたかつたがなぁ。」と自分の體力の衰へを憎むやうに憐むやうに言つた」(吉江 1913)

こうした展開は初期の時代に多く、砂丘が自然の風や波で姿を変えることから、人間の力の及ばない恐ろしさを感じる場所として登場していた。砂丘は、自然と人の生活が対峙する場所として描かれていたのではないだろうか。

また、「死」というと、1923年に鳥取砂丘を訪れた有島武郎の情死が、世間の注目を浴びた出来事だったと毎日新聞社（1958）をはじめ多くの先行研究・雑誌で記されている。しかし、有島が訪れる以前の文学作品にもこうした「恐ろしい」「病」「死」のイメージはあったため、有島の死が、他の文学作品に砂丘に死のイメージを与えたという影響ははっきりとわからなかった。

一方で、砂丘で遊ぶ様子が描かれた明るい描かれ方のものも初期の時代からある。

「私は此の書を描いた間々には、子供等と高い砂山に登り、砂すべりをしたり海邊の平らな砂地へ、長さ二十間もある大きな馬を線で描いて、汗を出した事などは、今でも面白いと思ふのである。人間は自然の偉大なる威力に打たれると、年齢などはわすれてしまつて、子供の様な心に帰り、遊んだり、歌つたりするものである」(五十嵐 1910)

「洋傘の先で、大きな顔を描いてみた。さうして、目口鼻の均衡をしめし合わせた。（中略）もう雨も病気も、午後鳥取を立つ豫定の汽車の時間も、一切忘れて了つて、尻をからげるやら、跣足になるやら、洋傘を中心に見るための目標として砂に突つ立てるやら、色々と支度をした」(里見 1922)

五十嵐が描いたのは神奈川県相模の砂丘、里見が描いたのは鳥取砂丘である。これらの文章からは、暮らしにほど近い遊び場、遊んでみたくなる場所であったことが読み取れる。

こうした、全く違うイメージで砂丘が描かれているが、小説・物語には「恐ろしい」イメージで描かれていることが多く、恐ろしさをイメージさせる舞台として描かれていたと考えられる。一方、「比較的明るい」砂丘が描かれているのは、紀行文・自叙伝に多く見られた。1930年代以降は、こうした対極のイメージのうち、恐ろしさを全面に描く作品は少なくなっている。写真に子供が登場することから、遊び場としての空間のイメージは残っているが、

人の生活をのみ込んでしまう恐ろしい空間というイメージが薄れていったのかもしれない。

第4章　考察

ここまで「砂丘」の登場する文芸作品を年代順に追ってその量や内容の比較検討を行ったが、日本人の砂丘イメージがどのように変化したのかをまとめる。

4－1　砂丘イメージの変化と文学作品の関係

まず、砂丘を一躍有名にした出来事として、1923年に有島武郎が鳥取砂丘を訪れ、そこにさみしさを見出した短歌を詠み、1か月後に自死したことが、毎日新聞社、吉田、大村で挙げられていた。

1920年代の作品数を見てみると、砂丘を取り上げたものが増えており、有島が砂丘の認知度に影響を与えたとも考えられる。しかし、1923年前後の大きな作品数の変化はなく、1923年以降というよりは1920年代から1930年代にかけて緩やかに増加していった印象ではっきりとした変化は読み取れなかった。

また、1920年代の「砂丘の場所」では、不明が半数以上を占めており、他年代に比べ最も割合が大きい。有島の短歌は、砂丘について抽象的でなじみのない場所としての印象を与えたのかもしれない。有島の短歌は、毎日新聞社（1958）によると初めて「砂丘」と歌に詠んだ作品であるとされている一方、「濱坂の遠き砂丘の中にして…」とあり、鳥取の砂丘とは書かれず、おそらく新聞記事や雑誌等で鳥取だと判断できた程度であったと推測される。

さらに、有島の死を悼んで鳥取砂丘に訪れ、友を想う短歌を詠んだ与謝野晶子の来訪が1930年である。1930年代・1940年代も作品数は緩やかに増加傾向にあった。しかし、描かれた「砂丘の場所」に着目すると、場所が明らかな砂丘のうち1920年代に鳥取砂丘は約10％だったのに対し、1930年代に約40％と増加している。このことから、鳥取砂丘への注目度を高める出来事は、むしろ与謝野晶子の来訪が大きいのではないか。もちろん、その来訪は有島の死という背景があってのことではある。その後、1932年には、高浜虚子一行による鳥取砂丘での吟行会が行われる、鳥取の地元歌人による歌集「砂丘の蒼情」が作られるといった流れで、文芸における鳥取砂丘への着目が強まっていったと考えられる。

4－2　描かれる「砂丘」の変化

第1章で示した現代の砂丘イメージが「起伏大きい、砂が一面に広がる場所」の観光地であったのに対して、本論では多様な砂丘の風景や描かれ方を見ることができた。まず、「起伏があるかどうか」という項目から、起伏が小さい場所や起伏の描写がない作品が1910年代、1920年代は6割以上で、1930年代以降に、起伏の存在や砂一面といった描写は徐々に増えている。

作品のなかに起伏が多く描かれるようになった1930年代は、同時に砂丘に占める鳥取砂丘の割合も増えた時期である。鳥取砂丘と起伏の関連性はあるのだろうか。鳥取砂丘の起伏量については、「鳥取砂丘に来られた方はその起伏の大きさに驚かれます。起伏に富んだ地形が数多く存在する鳥取砂丘には、「砂丘列」と呼ばれる砂の高まりが3つあります。海側から順に、第一砂丘列、第二砂丘列（標高約47m）、第三砂丘列（標高約60m）と呼ばれていて、第二砂丘列は馬の背中のように見えることから、「馬の背」の愛称で親しまれてい

ます」（鳥取県砂丘事務所）とされるように、鳥取砂丘の特徴として、起伏量の大きさが挙げられる。また旅行雑誌「旅」の記事では、鳥取砂丘について「擂鉢も深いが、砂山も高い。二十、三十米のすり鉢が落ち込んでいるかと思うと、七、八十米の馬鹿にでかい砂山が立つ」(長谷川　1954)とある。このような起伏量の多い砂丘イメージの浸透は、鳥取砂丘の具体的な姿の浸透と比例したものと考えられる。

さらに、描かれる砂丘の場所は、図3-2-3でも示したように、1950年代にかけ鳥取砂丘が徐々に増えた。また、1980年代・1990年代は1950年代と同様の割合を示していたが、作品数は1950年代の141件から1980年代44件、1990年代41件と大きく減っている。1950年代以降は、観光地として多くの来訪者が訪れることとなったが、そのことは文芸作品で砂丘をとりあげる頻度の増加に結びついておらず、むしろ観光地化とともに、とりあげられる頻度は極端に減少している。2007年から2017年の文芸作品を同じ方法で調べても22件ほどである。

文芸作品と観光意欲の高まりがリンクしていた時期があることは、本論の50年代の作品数の多さから読み取ることができた。しかし、観光地としてのイメージが定着すれば、それらはもうリンクしないのだろうか。

例えば、「1975年以降になると、砂丘を扱った推理小説が目立つ」(大村1993)とあり、観光地とまた別の一面で「砂丘」は描かれていた。しかし、こうした作者も出版後、観光地化した砂丘をテレビで見て「(中略)こりゃ、まずい。もう書けないなと思いました」(同上)と驚いたそうである。「砂丘は長い間、およそ情緒とは程遠い不毛の砂漠として人々の目に映った」(同上)とされ、こうしたイメージが文学的視点を生んでいたとすると、観光地化で人が押し寄せる砂丘は魅力的ではなくなったのだろう。

また、1950年代の作品では、観光地化した鳥取砂丘以外の他の砂丘が写真の対象としてとりあげられる事例も多い。観光地化により、人が多く集まる場所となり、植田正治が「かつては乙女の肌のような曲線美」としていた砂の造形美が損なわれることで、文芸作品の対象としての魅力も失われていったと考えられる。本論では、砂丘イメージの変化を検討したが、文芸作品での取り上げと観光地化との関係も明らかとなった。

日本人の砂丘イメージの変遷が現在につながるまでを図4-2-1でまとめた。

1910－20年代は、主に神奈川、千葉、静岡などの砂丘が幅広いイメージで捉えられ、遊んだり、近くに家があったりする生活空間だった。一方で、風によって姿を変える広漠な砂丘として恐ろしさや悲しみを感じさせる場所として文芸作品に登場していた。1910年代・20年代は、文芸作品で取り上げられる砂丘で場所が示されている箇所の10－20％程度が鳥取砂丘であり、それ以外の場所が広くとりあげられていた。1930年代には、与謝野の来訪があり、文芸作品で鳥取砂丘の取り上げが大きく増える。

また、文学作品に加え、1940年代から写真での取り上げの頻度が高くなり、このことも砂丘観光が広まり来訪者が増えたことと関係していると言える。1950年代は文芸作品で1940年代の約3倍近く取り上げられると同時に、図2-2-1より観光客も1960年代に向け増加している。この時期は、文芸での取り上げと観光での注目がともに高まっており、文芸と観光がともに砂丘イメージを広く流通させていった。そして訪れる人が増え、観光地化が進んだ鳥取砂丘では、かつての人の気配がない砂丘独特のイメージや、植田が評価していた美的な価値も観光地化によって減少した、よって、文芸の対象とされにくくなったと考

えられる。文芸での取り上げは減少していくが、図2-2-1より鳥取砂丘の観光は1972年のピークに向かって来訪者が増え、鳥取の観光地＝砂丘、砂丘＝鳥取砂丘、というイメージが定着して、現在の砂丘のイメージに至っている。

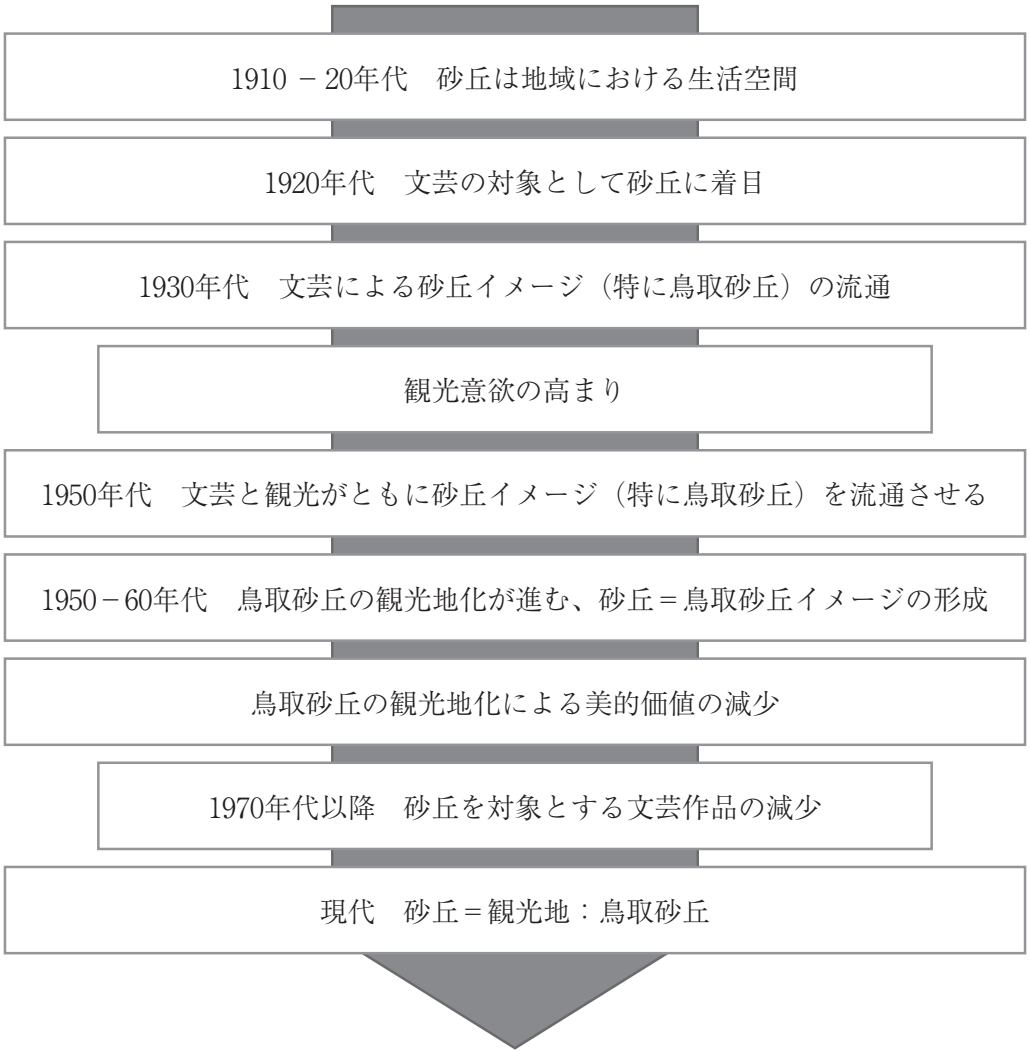

図4-2-1　日本人の砂丘イメージの変化

「砂丘」は、昭和初期までの、砂による多少起伏のある海岸、非日常的とはいえない場所という幅広いイメージから、1930年代に文芸による鳥取砂丘の取り上げが増えた結果、起伏の大きい砂が一面に広がる非日常的なイメージが流通し、1950年代の鳥取砂丘への観光客の増加とともに、現代の「砂丘」のイメージが固定化した。日本人の「砂丘」のイメージが一定ではなかったことが明らかとなったと同時に、文芸作品での取り上げの頻度と観光地化は必ずしも同調するものではなく、観光地化が文芸作品での取り上げを減少させる事例が確認された。

【参考文献】

アーリ、J.（加太宏邦訳）（1995）『観光のまなざし―現代社会におけるレジャーと旅行―』法政大学出版局
五十嵐禎夫（1910）「砂丘」『新文芸（6月號）』新文芸社

大村康久（1993）『鳥取砂丘』富士書店
門池真菜（2014）「文学作品からみる蛇に対するイメージの変化―他宗教からの影響―」英米文学英語学論集 3、65-100
神田孝治（2001）「南紀白浜温泉の形成過程と他所イメージの関係性」『人文地理』53巻5号、24－45
国土交通省国土地理院「コラム「砂丘」」
〈http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/TAIHUU14/kawa_2-4.html（2017/12/20閲覧）
古徳博美（1959）「旅情豊か山陰路」『日本カメラ』131号、142
里見弴（1922）「世界一」『幸福人』新潮社
津田夕梨子、十代田朗、津々見崇（2011）「雑誌『旅』にみる温泉地に対するイメージの変遷に関する研究」『都市計画論文集』46巻3号、607-612
鳥取Style「鳥取砂丘」
〈http://tottori-style.com/area/tottori-iwami/city-tottori/tt0064/〉（2017/12/21閲覧）
鳥取県砂丘事務所「鳥取砂丘のここが日本一」
〈http://www.pref.tottori.lg.jp/153171.htm〉（2017/12/22閲覧）
鳥取県「主要観光地入込客数　平成29年10月」
〈http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/226511/2910kankouirikomi.pdf〉（2017/12/22）
鳥取県「鳥取県に対するイメージについて」
〈http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/692995/265ime-ji.pdf〉（2018/1/1閲覧）
鳥取砂丘再生会議「鳥取砂丘の歴史」
〈http://www.tottorisakyusaisei.jp/index.php?view=4752〉（2017/12/30閲覧）
トリップアドバイザー「山陰旅行・観光ガイド2017年」〈https://www.tripadvisor.jp/Attractions-g13003596-Activities-San_in_Chugoku.html〉（2017/12/29閲覧）
鳥取県観光交流局観光戦略課「平成28年観光客入込動態調査結果」
〈http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/226510/H28sashiH29.08.pdf〉（2017/12/15閲覧）
長谷川三千春（1954）「ルポ　生きている砂丘」『旅』28（6）、83
日置市「日置市の統計」〈http://www.city.hioki.kagoshima.jp/kouho/shisejoho/tokejoho/toke-data/documents/toukei2016.pdf〉（2017/12/29閲覧）
毎日新聞社（1958）『鳥取砂丘』、毎日新聞社
松田真由美（2004）「鳥取砂丘観光の課題と方向性―砂丘政策の歴史的分析から―」公立鳥取環境大学　TORCレポートNO.23（2004年上期）研究員レポート〈https://www.kankyo-u.ac.jp/f/innovation/torc_report/report23/23-sand.pdf〉（2017/12/21閲覧）
松本穣葉子（1980）「砂丘と文学―想い出す人々―」、『新都市 都市計画全国大会特集』34巻10号、215－221
丸上雄哉他（2015）「観光地におけるイメージ形成と資源保全プロセスに関する比較研究」『日本建築学会計画系論文集』80巻708号、351-360
吉江狐雁（1913）『砂丘』忠誠堂
吉田璋也（1973）『鳥取砂丘』牧野出版社